

From New York

Vol.9

世界の街の“今”を、現地からお届けします

文/FIFTH New York Office (<http://www.fifthwiki.com>)

ロックフェラー・センターに設置されている巨大なクリスマスツリーのライトアップが始まり、ニューヨークはいよいよホリデーシーズンに突入しました。クリスマスシーズンの風物詩であるこのロックフェラー・センターの点灯式は、1931年から続く伝統行事で、クリスマスシーズンの風物詩となっています。

また、消費電力を抑えるためにツリーの装飾が従来の白熱電球からLED(発光ダイオード)に替えられました。当時はツリーの美しさが半減すると懸念されていたLEDですが、夜空に映るこのイルミネーションはより美しさを増し、ニューヨークの夜空を華々しく飾っています。

クリスマスムードが最高に盛り上がったのは、2000年のミレニアムを迎える1999年でした。最も景気が良かったニューヨークはいたるところでパーティーが開催され、ひと晩でパーティーを3、4件かけ持ちするソーシャリットが注目されたのはこの頃です。彼らやプライベートバンカー達はパーティーの度に同伴者を変え、大いにシングルライフをエンジョイしていたようですが、2001年9月11日の「世界同時多発テロ」を期に、彼らのライフスタイルに変化が起こりました。日本でもおなじみの「婚活」ブームが起こったのです。

「9.11以来、家族を持つと考えるようになったよ」と語った金融業界のとあるエリート男性は、「10ミニッツ・デート」に積極的に参加するようになりました。「10ミニッツ・デート」とは、男性と女性が10分間という時間制限の中で自己紹介をし、お互いのバックグラウンドについて話し、次の相手とも10分間話をするというシステムで、この間に意気投合した相手やフィーリングの合う相手がお互い一致すれば、連絡先を交換しあいます。「SEX and the CITY」の1シーンでも、ミランダが「10ミニッツ・デート」に参加し、自分のバックグラウンドを偽って、新しい相手とデートを重ねていた場面がありました。スタンフォード大学出身で「ゴールドマン・サックス」でプライベートバンカーとして活躍する金融業界エリートの彼も、職業を偽って参加しています。

「お金目当てではなく、本当に自分のことを好きになってくれる女性を探したい」と願い、「年収2万ドル、貯金なし」として何度も「10ミニッツ・デート」をしてみたそうですが、どうも彼の御眼鏡にかなう女性にめぐり逢えません。「価値観が合わない」からとのこと。自分のバックグラウンドを偽り続ける彼は、「2万ドルの年収で満足してくれて、オペラとワインに精通する誠実な女性」を探し求めています。彼はいつ、このホリデーシーズンを楽しむ人と一緒にエンジョイする日が来るのでしょうか。